

3. 中心市街地の活性化の目標

〔1〕基本計画の目標

高岡市の基本計画では、中心市街地活性化の基本方針に基づき、次の3つを中心市街地活性化の目標として設定する。

目標1：歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大

目標2：まちなか居住の推進

目標3：中心商店街の賑わいの創出

以下、目標ごとの施策を提示する。

目標1：歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大

本市の中心市街地の特徴を示す「まちの骨格づくり」のため、高岡にしかない歴史・文化資産の魅力の底上げによる交流人口の拡大を通じて中心市街地の活性化を図る。

そのため、高岡の優れた（世界に誇れるような）歴史・文化資産の保存・継承に向けた調査、活用に努めるほか、これらの歴史・文化資産への観光客拡大を図るため、道路景観整備、歴史・文化資産周辺における観光関連店舗の立地支援など、滞在時間の延長に繋がる周辺環境の整備を図る。あわせて、市民活動を通じ、地域に対する愛着を高めるとともに、歴史・文化資産を活用した新たなイベントの開催により、観光客の掘り起こしを図る。

歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大
(世界に誇れる歴史・文化を生かしたまちづくり)

世界に誇れる(世界文化遺産への登録)資産はもとより、関連する歴史・文化資産の保存と活用による[まち]の骨格づくりの推進

歴史・文化資産のみならず、それらを取り巻く観光資源や観光利便施設の機能の充実と連携強化による回遊性の創出と交流人口の拡大の推進

開町400年記念事業(H21)との相互連携による市民意識の醸成

目標2：まちなか居住の推進

既存の都市福利施設の集積を生かすとともに、市民のライフスタイルの変化に対応した新たな生活空間として中心市街地を再構築するため、中心市街地において良好な居住環境を提供する。

そのため、まちなかでの良好な住宅建設・取得を支援するとともに、まちなか居住者の利便性を高めることにより、中心市街地への居住志向を高める。

まちなか居住の推進
(便利で住みよく快適なまちづくり)

人口及び世帯数の減少が著しい地域における住宅供給支援体制の整備

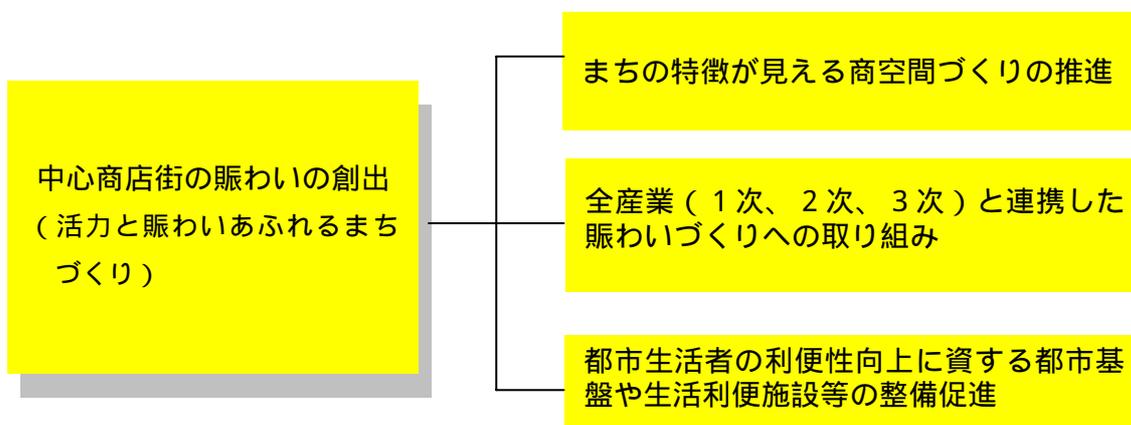
目標 3：中心商店街の賑わいの創出

本市の中心市街地の賑わいのバロメーターである高岡駅北側を中心とした中心商店街の活性化を図るため、本市の地域資源を活用した「高岡らしい」商空間の構築を推進する。

そのため、高岡銅器・高岡漆器に代表される「ものづくり」の文化を活用した店舗の開設や陳列方法の工夫等を推進するほか、地場の農産品や農産加工品など安心・安全な地場産品の提供を支援するとともに、チューリップ、コロツケなど、特徴ある商品の提供を推進することにより観光資源としての活用を推進する。

また、商空間形成にあたっては、商店街の周辺地域の特性に応じた店舗配置を推進するほか、オフィス立地支援等を行うことにより、昼間人口の拡大を推進する。

あわせて、周辺部から中心市街地までや中心市街地内の交通アクセスの向上を図るため、JR高岡駅をはじめ路面電車万葉線やコミュニティバスなどの地域交通の利便性の向上を促進するほか、歩車道の区分による歩きやすい道路整備の推進を図る。



〔2〕計画期間の考え方

基本計画の期間は、現在取り組んでいる高岡駅周辺整備事業や世界文化遺産への登録に向けた活動とともに、平成 21 年に迎える開町 400 年に向けた各種事業の進捗及びその効果を考慮するほか、平成 19 年に策定された高岡市総合計画基本構想及び事業計画の計画期間との整合を図るため、平成 19 年 11 月から平成 24 年 3 月までの 4 年 5 月とする。

〔3〕基本計画で達成すべき数値目標の設定について

本計画の3つの目標にあわせ、それぞれ数値目標を以下のとおり設定する。

(1) 歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大

(世界に誇れる歴史・文化を生かしたまちづくり)

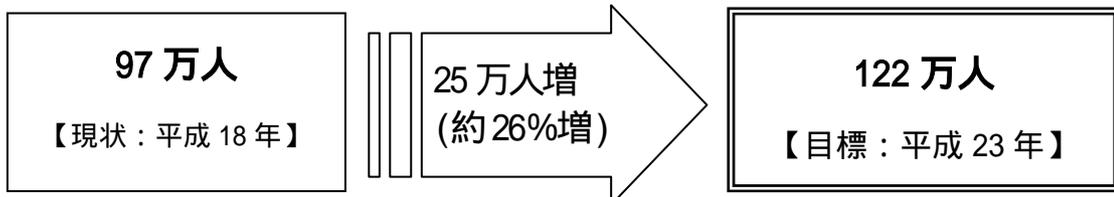
指標の考え方

歴史・文化資産の活用による交流人口の拡大に関する指標としては、中心市街地内の観光施設やイベントに訪れる観光客入込み客数が、客観的な指標として有効であると考えます。

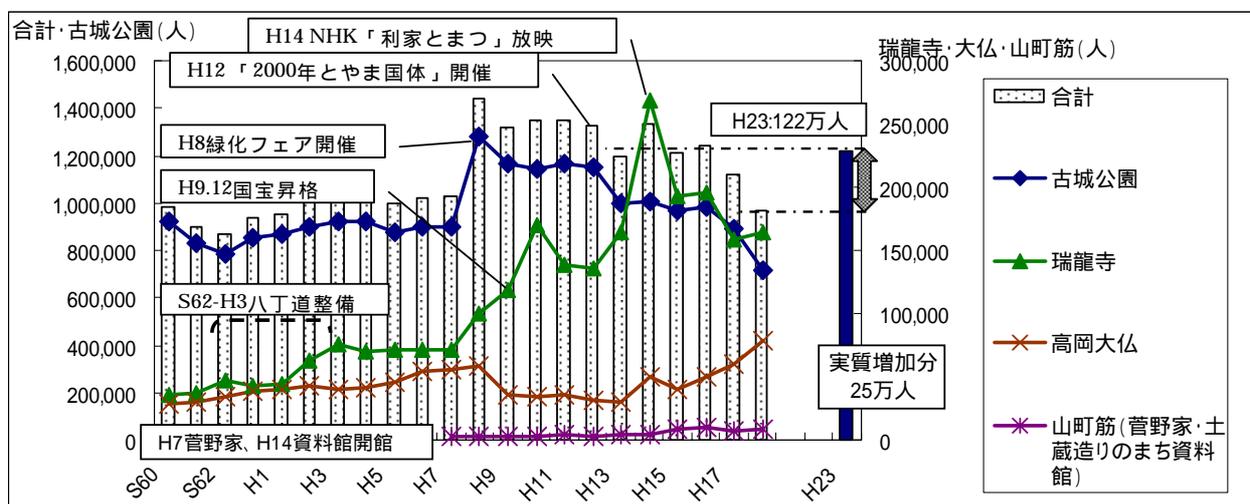
このことから本計画では、中心市街地内の主要観光施設(高岡古城公園・瑞龍寺・高岡大仏・山町筋(菅野家・土蔵造りのまち資料館)・金屋町(鑄物資料館))への集客を図るための事業に取り組み、まちなか交流人口の拡大を推進することから、「**主要観光施設における観光客入込み数(人)**」を指標として設定する。

数値目標設定の考え方

主要観光施設における観光客入込み数は、平成8年には全国都市緑化フェアの開催により飛躍的に増加した。その後漸減傾向を示しながら平成14年の特殊要因を除き、平成13年～16年までは概ね横ばいで推移しており、これまでの誘客施策とともに緑化フェアの開催効果が一定程度あったものと考えられるが、平成17年以降の落ち込みが顕著になっている。本市では、平成13年に山町筋が重要伝統的建造物群保存地区に選定(平成12年12月)され、現在の中心市街地の文化遺産群を生かした観光基盤が確立した年であることから、観光客入込み数を平成13年レベルを超える122万人を数値目標とする。



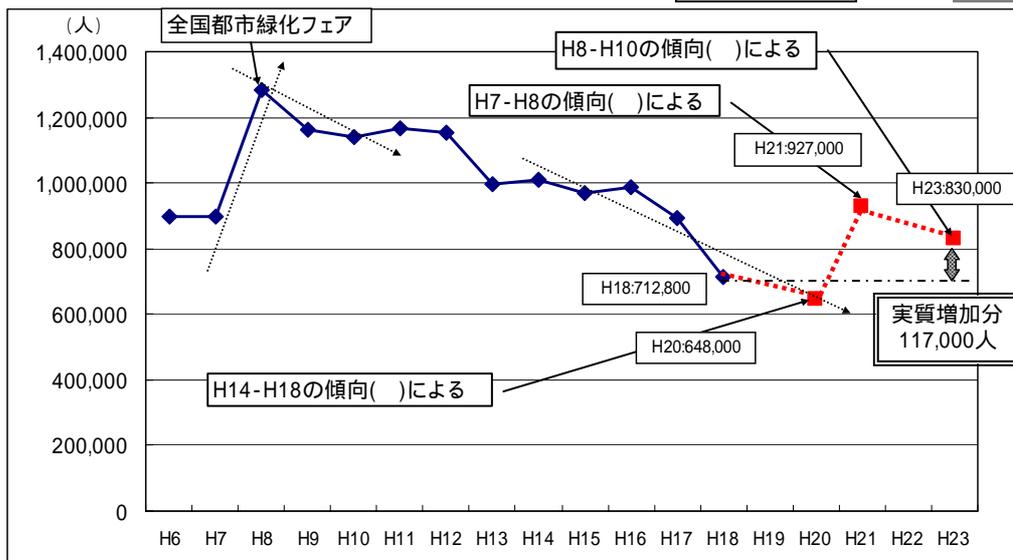
中心市街地の主要観光施設における観光客入込数の推移



	H6	H7	H8	H9	H10	H11	
高岡古城公園	895,400	896,200	1,282,100	1,164,000	1,140,000	1,167,000	
瑞龍寺	71,800	72,000	99,600	119,200	170,700	138,800	
高岡大仏	54,900	55,100	58,600	35,600	34,900	35,800	
山町筋(菅野家・土蔵造りのまち資料館)		2,379	2,313	2,225	3,061	4,763	
合 計	1,022,100	1,025,679	1,442,613	1,321,025	1,348,661	1,346,363	
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
古城公園	1,152,000	995,000	1,008,100	969,420	985,304	894,900	712,800
瑞龍寺	136,000	164,400	268,400	192,650	196,000	159,030	165,000
高岡大仏	31,600	29,800	49,600	40,000	50,000	60,000	79,000
山町筋	3,471	3,770	4,525	7,977	9,778	7,490	8,361
	1,323,071	1,192,970	1,330,625	1,210,047	1,241,082	1,121,420	965,161

高岡古城公園への観光客数の増加

117,000人・・・(A)



(内訳)

ア) 開町 400 年記念事業による効果

平成 21 年 (2009) に高岡開町 400 年を迎えることから、高岡古城公園を主会場とし、中心市街地の文化遺産群を活用した記念事業を開催する。

高岡古城公園は、平成 8 年に全国都市緑化フェアを開催した際、各種花壇、庭園などの花の展示や各種アミューズメント施設が臨時に整備され、7 月から 9 月までの 52 日間に渡り多数の来場者が訪れた。本記念事業は、既存の事業の拡充等もあわせ年間を通じたイベントとなるが、緑化フェアと同規模の臨時的な集客事業もあわせて開催される予定であることから、同程度の効果が期待できる。また、イベント開催以降の年次においても、記念事業において市民提案型の自主的なイベントも数多く実施される予定であることから、記念事業がきっかけとなった後年への波及効果も期待できる。

開町 400 年記念事業に伴う高岡古城公園の観光客入込み数

(H23 時点の増加見込み人数) 117,000 人

(注 1)

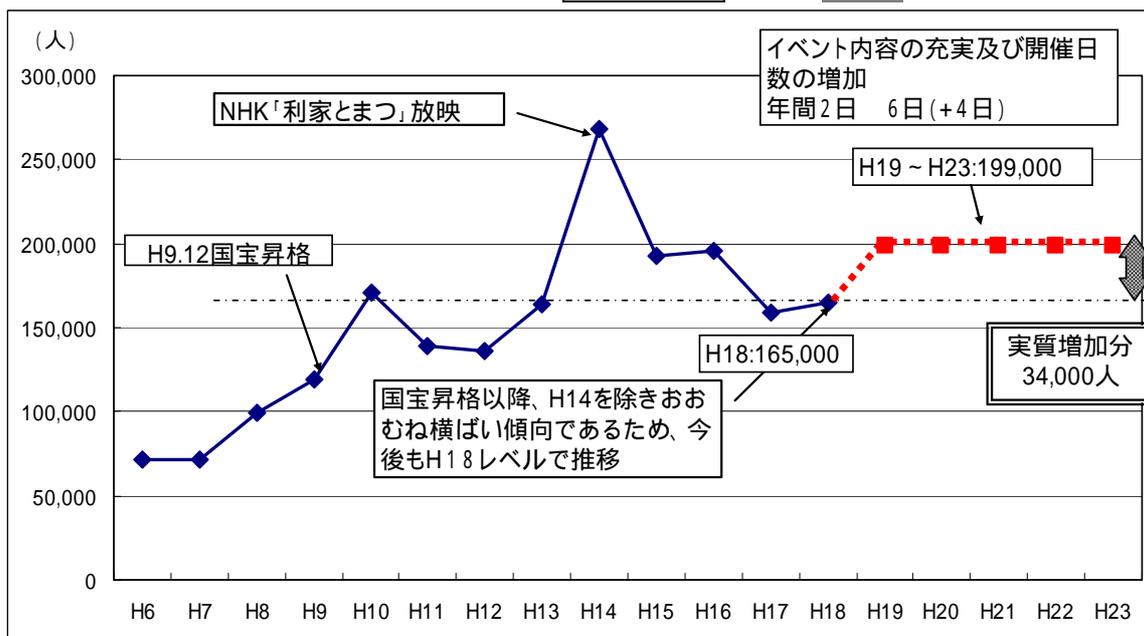
(注 1) 各傾向の算定理由

傾向 : $y = -66,512.00x + 1,113,640.80$ [RSQ:0.764] H14 を基準年とする (H14:x=1)

傾向 : $H8/H7 = 1,282,100 \text{ 人} \div 896,200 \text{ 人} \quad 140\%$

傾向 : $H10/H8 = 1,140,000 \text{ 人} \div 1,282,100 \text{ 人} \quad 90\%$

) 瑞龍寺への観光客数の増加 34,000人・・・(B)



(内訳)

ア) 瑞龍寺ライトアップ事業による効果

瑞龍寺は、高岡南部地域活性化協議会が「瑞龍寺 100 万人構想」を掲げ、観光客の増大のため既存イベントの充実や新規イベントの創設等により、観光客入込み数の拡大を目指している。

主要イベントとして、平成 12 年から同協議会が中心となった実行委員会により開催されている夏のライトアップ事業が開催されているが、夏のイベントの開催日数の増加及び内容の充実とともに新たに冬のライトアップ事業を開催することにより、観光客入込み数の増加を図る。

a) $\frac{\text{夏のライトアップ事業分 } 54,000 \text{ 人 (3 日間)}}{\text{(注 1)}} \div \frac{\text{3 日}}{\text{(注 2)}} = 18,000 \text{ 人}$

(注 1) 夏のライトアップの観光客数 (H19.8 の実績による)

昨年までと比べ、イベント開催日数は、2日 3日に増加

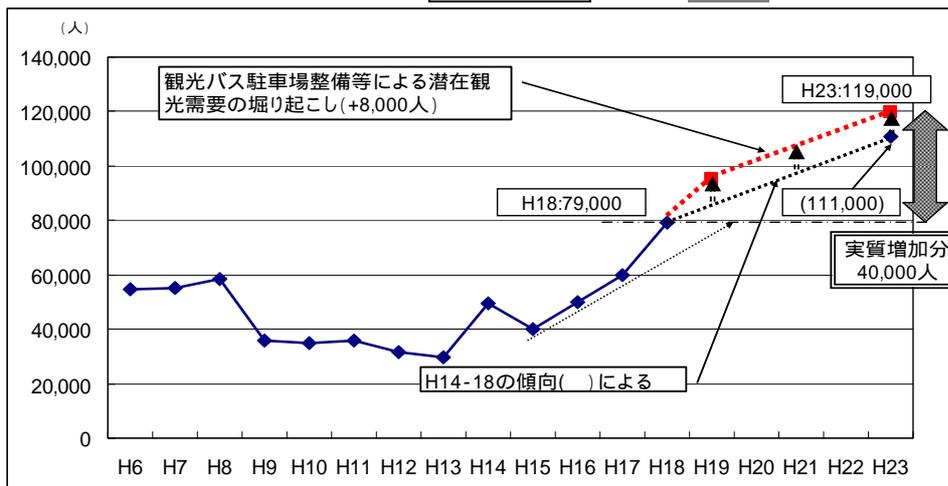
(注 2) 平成 19 年度の夏のライトアップの開催日数が 3 日間であったことから、1 日当たりの観光客数 (開催日数増加による実質増加分) を算定するため、開催日数で除する。

b) $\frac{\text{冬のライトアップ事業分 } 16,000 \text{ 人}}{\text{(注 1)}}$

(注 1) 冬のライトアップの観光客数 (H19.2 の実績による)
イベント開催日数は、0日 3日に増加

a) + b) の合計 : 34,000 人

) 高岡大仏への観光客の増加 40,000人・・・(C)



(内訳)

ア) 高岡大仏観光バス駐車場整備事業及び観光バス市営駐車場料金補助事業による効果

高岡大仏周辺には、大型観光バスに対応した駐車場整備がされておらず、団体旅行客は、車中見学または路上駐車等によるごく短時間の見学に止まっている状態である。

高岡市では、平成 19 年度に高岡大仏近隣に観光バス向けの無料駐車場を整備するとともに、(社)高岡市観光協会において、中心市街地に 2ヶ所ある大型バスが駐車可能な市営駐車場(高岡中央、御旅屋)の利用料金を無料化する事業を実施している。

この事業により、観光客の滞在時間の延長とともに、車中見学等により通過していた潜在需要の掘り起こしが期待できる。

$$\frac{27 \text{ 人/台} \times 12 \text{ 台/7日} \times 50\% \times 365 \text{ 日}}{\text{(注1)} \quad \text{(注2)} \quad \text{(注3)}} = \underline{\underline{8,000 \text{ 人}}}$$

(注1) 観光バス 1 台当たりの平均乗車人員(H19.7 調査実績による)

(注2) 車中観光により、通過した観光バスの台数(H19.7 調査実績による)

(注3) 注2のうち、駐車場整備に伴う駐車場を利用するバスを半分程度見込む。

イ) H14 - H18 の傾向による増加見込み分

日本三大仏のひとつであり、かつ、無料で手軽に観光できる高岡大仏は、近年、観光地として人気上昇している。観光客の特徴を見ると、日本人観光客とともに、近年では、韓国、中国、台湾等からのアジア系観光客の増加が見受けられる。

近年の増加傾向に加え、平成 19 年度の高岡大仏保存修理事業を契機に、観光客需要の更なる掘り起こしが期待できる。

$$\text{平成 18 年と平成 23 年の観光客入込み数の差} = \underline{\underline{32,000 \text{ 人}}}$$

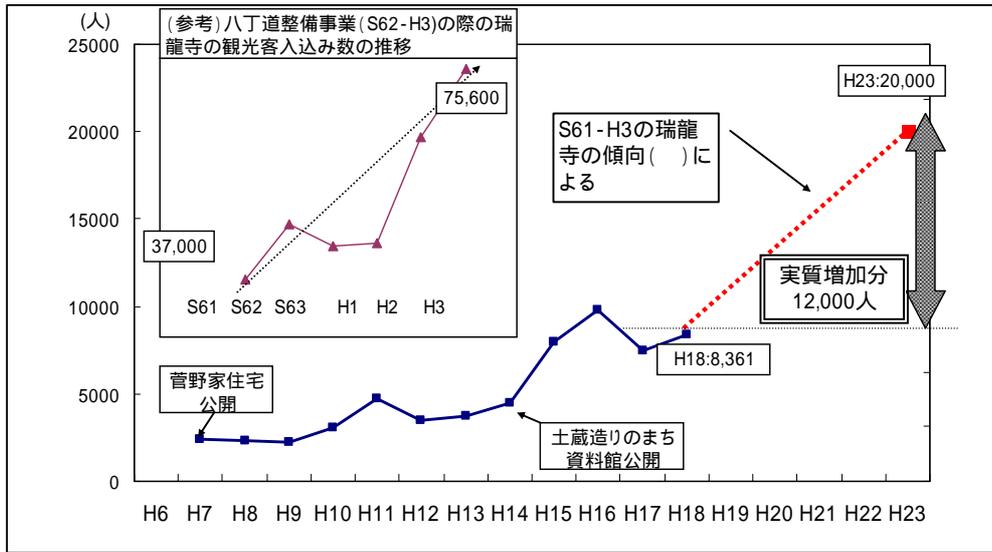
(注1)

(注1) 傾向 : $y=7,880.00x+32,080.00$ (RSQ : 0.708) H14 を基準年とする(H14:x=1)

ア) + イ) の合計 : 40,000 人

山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館）への観光客の増加

12,000人・・・(D)



(内訳)

ア) 山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業等による効果

(山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業、市道鴨島町木舟町線整備事業、市道木舟町大坪町一丁目線整備事業)

山町筋は、平成13年度から伝統的建造物の修理事業が実施されており、平成18年度現在、道路から確認できる土蔵造りの町家(42件)のうち57.1%の修理が終了している。あわせて、非伝統的建造物等の修景も4件実施されており、今後、計画的な保存修理事業において、町歩きを楽しみながら土蔵造りの町並みが見学できる雰囲気が醸成されてきている。

このような修理事業とあいまって、伝建地区内の主要道路を、安心して散策しやすい歩道幅の確保を図りながら、道路の修景と無電柱化を実施することにより、更なる観光客の増加が期待される。

景観形成に伴う山町筋の観光客入込み数 (H23時点の増加見込み人数)

$$= 8,361 \text{人} \times (250.9 - 100.0) \% = 12,000 \text{人}$$

(注1) (注2)

(注1) 土蔵造りのまち資料館及び菅野家住宅のH18年の入館者数

(注2) 同様の道路整備をS62-H3に八丁道で実施した際の瑞龍寺の5年間の観光客増加率 (参考) 瑞龍寺の入館者数の推移

S61	S62	S63	H1	H2	H3
37,000	47,000	43,000	43,700	63,000	75,600

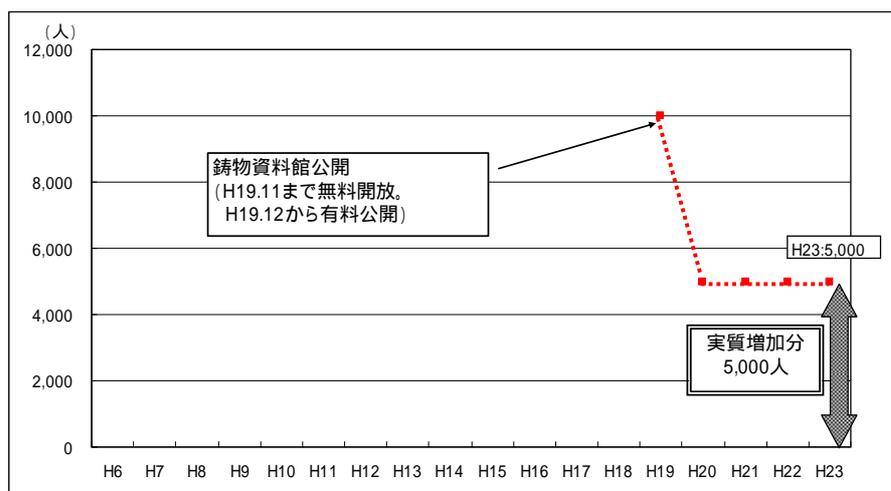
S61-H3の回帰式 $y=6,905.71x+27,380$ (RSQ:0.77515)

単年平均伸び率: $6,905.71 / (6,905.71 + 27,300) = 20.2\%$

5年間伸び率: $(100\% + 20.2\%)^5 = 2.509(250.9\%)$

H18(基準年)を含まない5年間の実質伸び率 = $(250.9 - 100.0) \%$

金屋町（ 鋳物資料館 ）への観光客の増加 **5,000 人** . . . (E)



(内訳)

ア) 高岡市鋳物資料館運営事業による効果

金屋町では、現在、金屋町が撮影場所となった映画による「8月のクリスマス」の記念館が週末に開館されているが、常時開放された鋳物のまちの歴史を伝える施設が設置されていなかった。平成19年4月29日に、新たに「高岡市鋳物資料館」が開館したことにより、今後は、金屋町の町並みにあわせた新たな見学スポットの提供が可能となり、更なる観光客の増加が期待できる。

年間入館者数 **5,000 人**

(注1)

(注1) 類似施設である土蔵造りのまち資料館のH15-H18の平均入館者数

(土蔵造りのまち資料館はH14.4開館。開館初年度は通年の入込み数が計上できないことから、H15-H18の平均値をみる。)

その他の事業による波及効果 **42,000 人** . . . (F)

から までの事業のほか、主要観光施設における観光客入込み数の増加を図るために一体的に推進する事業は、以下を予定しており、その相乗効果により、から までの事業効果の20%がさらに集客するものと想定する。

$\frac{208,000 \text{ 人} \times 20\%}{(注1)} = 42,000 \text{ 人}$ (注2)

(注1)

(注2)

(注1) から までの事業による観光客入込み数

(注2) 総合的な効果による増加寄与率(見込み)

ア) 文化遺産群の歴史調査及び保存修理に関する事業

個々の文化遺産の歴史的価値の検証のため、史跡調査等に取り組むとともに、適切な保存修理に取り組むことにより、歴史的・文化的価値の維持、向上を図る。

- a) 高岡御車山保存修理事業
- b) 高岡大仏保存修理事業
- c) 高岡御車山祭
- d) 前田利長墓所詳細調査事業
- e) 金屋町町並み保存に関する意向調査事業

イ)文化遺産群の活用に関する事業

文化遺産群の保存に努めるだけではなく、文化遺産の価値向上を図るための整備を行うとともに、文化遺産の見学機能の充実や文化遺産を活用したイベントの開催等により、観光客の誘致とリピート率の向上を図る。

- a) 高岡古城公園整備事業
- b) 重要文化財菅野家住宅運営事業
- c) 高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業
- d) 大学連携による伝統産業再生事業
- e) 「高岡御車山」臨時山倉設置事業
- f) 中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業
- g) 中心商店街活性化イベント開催事業
- h) 文化遺産活用イベント開催事業
 -) 「世界文化遺産をめざす高岡市民の会」の活動
- j) 高岡御車山展示館建設事業

ウ)文化遺産群の周辺環境整備に関する事業

文化遺産の価値を高めるには、文化遺産の保存、活用を図るだけではなく、文化遺産周辺における観光関連店舗の誘致やフィルムコミッション事業等による従来とは異なる観光視点を提供するなど、周辺環境を整備することにより、対象となる観光客属性の拡大を図る。

- a) 「8月のクリスマス」記念館運営事業
- b) 中心市街地における開業支援事業
- c) フィルムコミッション事業
- d) シルバーサロン坂下小路運営事業

エ)文化遺産群の回遊性の向上に関する事業

個々の文化遺産の価値向上を図ることにより誘客を推進するだけではなく、来訪した観光客が複数の文化遺産を回遊しやすくするため、文化遺産同士を繋ぐための歩きやすい道路整備や誘導案内板の整備等をはじめ、携帯電話を活用した観光情報の発信、巡行バスの運行、レンタサイクルの設置、コンベンションによる宿泊客への無料観覧券の配布等、ハード・ソフト両面にわたる環境整備により、回遊性の向上を図る。

- a) 市道坂下町大町線整備事業
- b) 市道坂下町新横町線整備事業
- c) 市道堀上町金屋町線整備事業
- d) 市道堀上町中島町線整備事業
- e) 市道片原横町川原本町線整備事業
- f) 市道片原町川原町1号線整備事業
- g) 市道片原町川原町2号線整備事業
- h) 地域生活基盤施設(地内各所)整備事業
 -) 高岡駅南北自由連絡通路整備事業
- j) 高岡駅北口歩行者専用道(人工デッキ)整備事業
- k) たかおかなびプロジェクト事業
- l) 地域に根ざした文化資産を活用した都市再生プロジェクト
- m) まちづくり活動支援事業(中心市街地商店街情報発信事業)
- n) 都市計画道路高岡駅佐加野線整備事業

- o) たかおか観光戦略ネットワーク事業
- p) まちなか情報発信事業
- q) コンベンション開催支援事業による効果
- r) まちの駅ネットワーク事業
- s) コロッケのまちづくり事業
- t) 「近世高岡の文化遺産群めぐり」巡行バスの運行による効果
- u) レンタサイクル事業

オ) 高速交通体系の整備に関する事業

現在、高岡市を取り巻く高速交通体系は、平成 26 年度の北陸新幹線の金沢駅までの部分開業のみならず、平成 20 年春の東海北陸自動車道の全通により、大きく変化することが予想されている。これに伴い、富山県内の 2 事業者により名古屋と高岡を結ぶ高速バスの運行が予定されており、東海地方からの新たな高岡市内への来訪者の掘り起しを図る。

- a) 高速バス運行事業

上記、(A) から (F) の合計 (増加見込み分)	25 万人
----------------------------	-------

よって、目標となる観光客入込み数は、下記の通りとなる。

97 万人	+	25 万人	=	122 万人
(H18 観光客入込み数)		(増加見込み)		

本市では、「世界文化遺産」と「開町 400 年」をキーワードに、歴史文化資産の保存と活用に向け、ハード、ソフト両面にわたる新たな観光戦略に取り組んでおり、観光客入込み数の 25 万人の増加を図ることは十分可能である。

フォローアップの考え方

観光客入込み数は、各施設により測定している数値を、半期ごとに高岡市が調査を行っている。この数値を根拠とすることにより、数値目標の達成状況を確認する。あわせて、基本計画が認定された 2 年後の平成 21 年度において完了もしくは開始している事業について進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進などの目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

(2) まちなか居住の推進

(便利で住みよく快適なまちづくり)

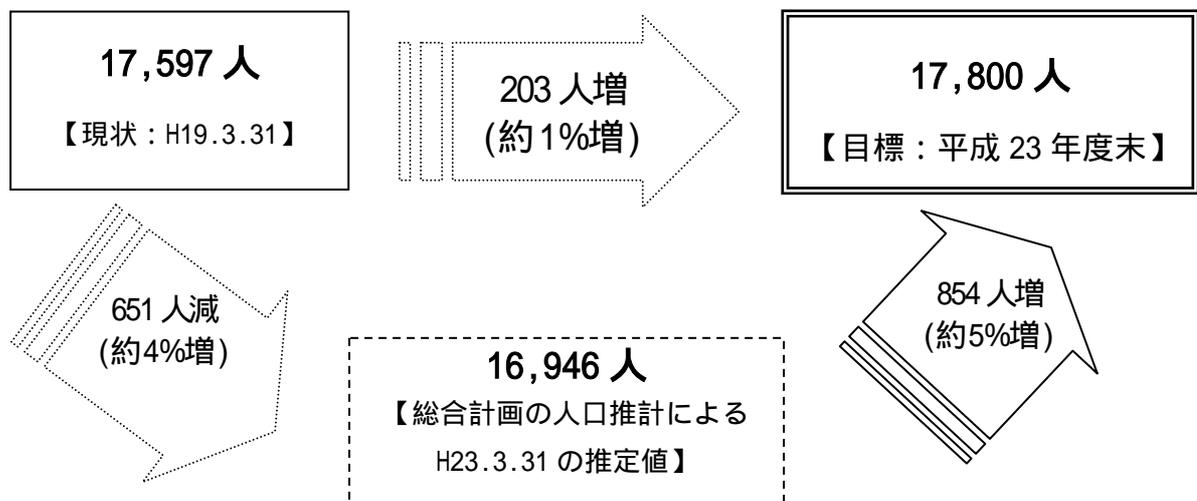
指標の考え方

まちなか居住人口の増加に関する指標は、居住人口が客観的な指標として有効であると考えます。

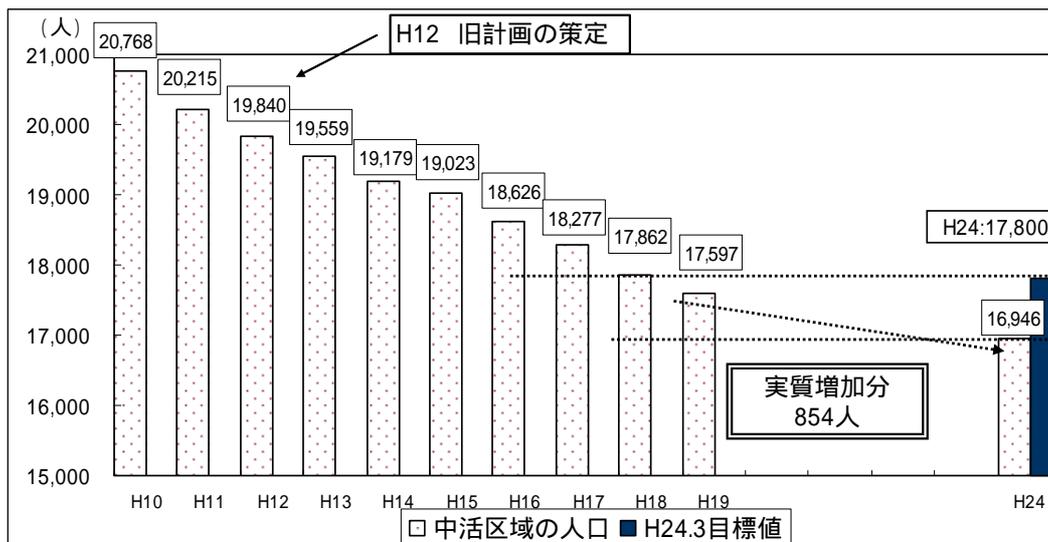
本市では、他都市と同様、住民基本台帳により町丁字別の人口を計測しており、中心市街地におけるまちなか居住の実態を直接測定できる指標として、「**中心市街地における居住人口(人)**」を指標とする。

数値目標設定の考え方

平成 19 年 3 月 31 日現在の中心市街地の住基人口が 17,597 人であり、旧基本計画を策定した平成 12 年以前からの人口減少傾向に歯止めがかかっていない状況である。高岡市の人口は合併以前の昭和 62 年をピークに減少しており、あわせて中心市街地における居住人口の割合も減少している。中心市街地では、地価の下落により、従前よりも安価に土地を購入できるようになったが、相対的に周辺部においても地価が下落していることから、呉西地域住民の「『より広くて大きな家』を求める志向」の中で、中心市街地における住宅取得時の高コスト構造は相対的には改善されていないことから、中心市街地の居住人口を現状の平成 19 年レベルを超える 17,800 人を数値目標とする。



中心市街地の居住人口の推移（各年3月31日現在）



まちなか居住支援事業（高岡市単独事業）に伴う増加 **380人**・・・(A)
 （まちなか住宅取得支援事業、まちなか共同住宅建設促進事業、まちなか優良賃貸住宅補助事業）
 高岡市では、平成19年度から中心市街地のうち特に人口、世帯数の減少がみられる高岡駅北側の約263haを「まちなか地域」に指定し、個人に対しては、地域内の住宅の新築及び戸建住宅や集合住宅の取得に対する支援制度を建築事業者に対しては、分譲又は賃貸の集合住宅を建設する際の支援制度を創設した。この制度により、中心市街地における住宅取得が促進されることが期待され、居住人口が増加するものと推察される。
 以下、戸建住宅と集合住宅とそれぞれの効果を検証する。

ア) 戸建住宅

$$\frac{7 \text{ 件} \times 1.5 \times 5 \text{ 年間} \times 2.53 \text{ 人}}{\text{(注1) (注2) (注3)}} = 140 \text{ 人}$$

- (注1) 平成19年4月から9月までのまちなか居住支援制度利用予定戸数
- (注2) (注1)の数値を通年化するための乗数(積雪等の影響により、下半期は上半期の半分程度の新規住宅着工戸数となる)
- (注3) 平成19年3月31日現在の中心市街地における1世帯あたりの平均居住者数

イ) 集合住宅

$$\frac{98 \text{ 戸} \times 2.53 \text{ 人}}{\text{(注1) (注2)}} = 250 \text{ 人}$$

- (注1) 平成19年7月現在の相談戸数

実施箇所	戸数	入居予定時期	備考
末広町	50	H22	1階部分は店舗
一番町	8	H22	
丸の内	40	H22	

- (注2) 平成19年3月31日現在の中心市街地における1世帯あたりの平均居住者数

ア) + イ) の合計 : 380人

) 大手町地内中心市街地共同住宅供給事業に伴う増加 60人・・・(B)

地元不動産事業者が、平成 20 年度から 21 年度にかけて、中心市街地内の自己所有地において中心市街地共同住宅供給事業による共同住宅を建設する準備を進めている。この事業により、中心市街地における良好な共同住宅が供給され、居住人口が増加するものと期待される。

$$\frac{22 \text{ 戸} \times 2.53 \text{ 人}}{\text{(注1) (注2)}} = 60 \text{ 人}$$

(注1) (注2)

(注1) 予定建設戸数

(注2) 平成 19 年 3 月 31 日現在の中心市街地における 1 世帯あたりの平均居住者数

) 支援事業によらない集合住宅建設に伴う増加 240人・・・(C)

駅南地区は、高岡駅まで歩いて暮らせる都市環境において、区画整理等の都市基盤が充実しており、更に、平成 4 年に高岡駅南口が開設されて以来、公共交通の利便性が向上したことにより、中心市街地では唯一人口が増加している地区である。

このような理由により、高岡市では、この地区をまちなか居住支援事業の対象地区に含めていないものの、現在、2 棟の集合住宅の建設が進んでいるほか、新たな建設計画も予定されていることから、居住人口の増加が期待される。

$$\frac{96 \text{ 戸} \times 2.53 \text{ 人}}{\text{(注1) (注2)}} = 250 \text{ 人}$$

(注1) (注2)

(注1) 平成 19 年 7 月現在の建設着工戸数(すべて分譲マンション)

実施箇所	予定戸数	入居可能時期
駅南 5 丁目	40	H20.2
八丁道	56	H20.1

(注2) 平成 19 年 3 月 31 日現在の中心市街地における 1 世帯あたりの平均居住者数

) その他の事業による波及効果 140人・・・(D)

から までの事業のほか、中心市街地の居住人口の増加を図るために一体的に推進する事業は、以下を予定しており、その相乗効果により、から の事業効果の 20% がさらに居住するものと想定する。

$$\frac{700 \text{ 人} \times 20\%}{\text{(注1) (注2)}} = 140 \text{ 人}$$

(注1) (注2)

(注1) 、 、 の合計

(注2) 総合的な効果による増加寄与率(見込み)

ア) 南北一体化に関する事業

J R 高岡駅の南北地区相互の都市ストックの利活用を図るため、南北間を繋ぐ安心・便利な歩行導線を確認することにより、住みよいまちづくりが推進され、居住人口の拡大が期待できる。

a) 高岡駅南北自由連絡通路整備事業

イ) 良好な住環境形成に関する事業

良好な住環境の提供を図るため、高岡市まちなみ保存・都市景観形成に関する条例に基づく景観形成地区への支援を行うとともに、良好な住宅団地の造成を支援することにより住みよいまちづくりが推進され、居住人口の拡大が期待できる。

- a) 優良住宅団地支援事業
- b) 池の端通り都市景観形成事業

ウ) 生活支援に関する事業

居住環境の充実のため、最寄品のうち、特に生鮮食品を扱う店舗の開設を支援するほか、地産池消への取り組みとともに安心して安全な生鮮食料品を中心市街地で提供するため、朝市・夕市を開催することにより住みよいまちづくりが推進され、居住人口の拡大が期待できる。

- a) 中心市街地における開業支援事業
- b) 朝市・夕市の開催

上記、(A) から (D) の合計 = 840人

ここで、高岡市総合計画基本構想で示す H18-22 の人口低減率から、H19-H23 の中心市街地の居住人口の人口動態を予測すると、

17,597 人(H19.3.31 現在) × 0.963(H18-22 の人口低減率) = 16,946 人(651 人)

よって、目標となる居住人口は、下記の通りとなる。

16,946人	+	840人	17,800人
(平成24年3月31現在の 中心市街地居住人口見込み)		(増加見込み)	

まちなか居住の志向は、近年の住宅着工戸数の傾向でも確認されているほか、中心市街地の周辺部においてもマンション建設が進んでいる。あわせて、高岡市のまちなか居住支援制度は事業効果を見ながら順次見直すことも予定しており、支援制度による効果は十分期待できることから、目標数値の達成は可能である。

フォローアップの考え方

中心市街地の居住人口は、高岡市の住民基本台帳により毎月末ごとに集計している。この数値を根拠として、数値目標の達成状況を確認する。あわせて、基本計画が認定された2年後の平成21年度において完了もしくは開始している事業について進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進などの目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

(3) 中心商店街の賑わいの創出

(活力と賑わいあふれるまちづくり)

指標の考え方

中心商店街の賑わいは、まちにあふれている人数や商店街における開業店舗数等により把握することが可能である。来街者数と店舗数は賑わいの要因として因果関係が強いことから、定点観測により中心市街地内の歩行者・自転車導線が把握できる「歩行者・自転車通行量」と現認することにより調査可能な「空き店舗数」が、客観的な指標として有効である。

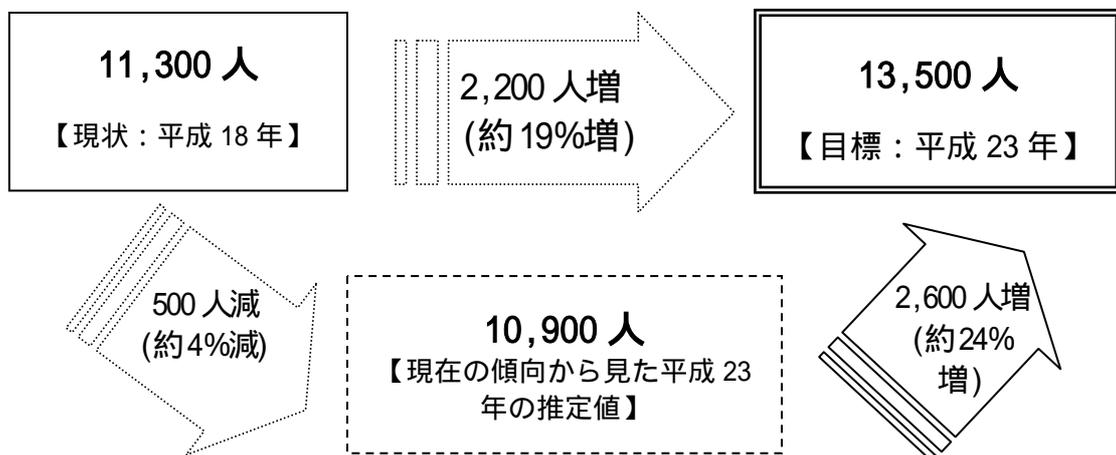
「歩行者・自転車通行量」は、高岡市では平成6年から10月中旬の金曜日(平日)及び日曜日(休日)に計測しているが、高岡駅北口から中心となる4商店街の調査地点(6地点)の数値が、本市の中心商店街の賑わいを客観的に示す数値として有効なこと、あわせて、平成6年からの調査以来、通行量の減少傾向が続いており、曜日を問わず中心商店街における賑わい回復が必要なことから、「**中心市街地(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値(人)**」を指標として設定する。

「空き店舗数」は、高岡市では平成7年から賑わいの中心である末広町・御旅屋通り・高の宮通り・末広坂の4商店街の空き店舗数を調査していることから、「**中心商店街(4商店街)の空き店舗数(件)**」を指標として設定する。

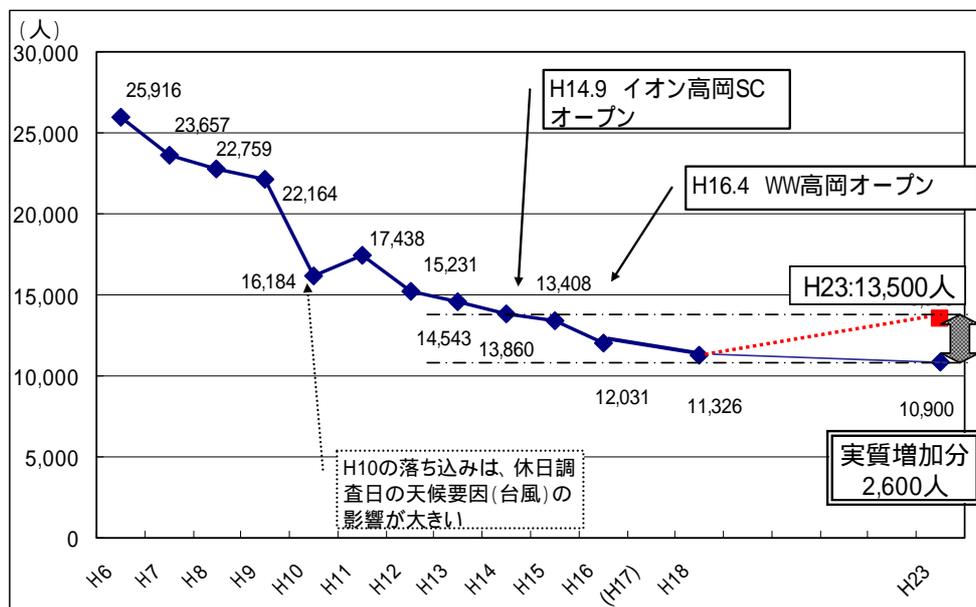
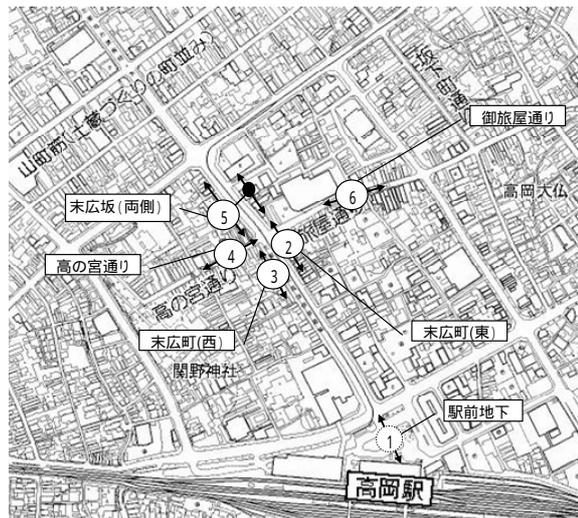
数値目標設定の考え方

A 中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値

「中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値」は、平成6年の調査開始以来減少傾向が続いているが、平成10年を境に傾向が変化している。平成10年以降、高岡市内外における大規模小売店舗の出店が加速したことにより、中心商店街はもとより大型店同士の競争が進んだことや若い世代を中心に郊外大型店への購買指向が促進されたこと、中心商店街での空き店舗数の増加等の影響によるものと推察されることから、大規模小売店舗の中でも市内最大の売場面積を持つイオン高岡ショッピングセンターが開店した平成14年レベルを目指し13,500人を数値目標とする。



【歩行者通行量
6 調査地点】



)(仮称) 未広町電停整備事業に伴う増加 **1,300人**・・・(A)

現在実施している高岡駅周辺整備事業により、万葉線高岡駅前電停は、現在の高岡駅まで移設され、高岡駅前・片原町間の電停の距離は、離れることが見込まれている。中心商店街における買い物の利便性の向上に向けて、中心商店街の中心部にあたる未広町交差点に新たに電停を設置することにより、中心商店街の回遊性が向上し、複数の調査地点を経由することにより、歩行者通行量の延べ人数が増加することが期待できる。

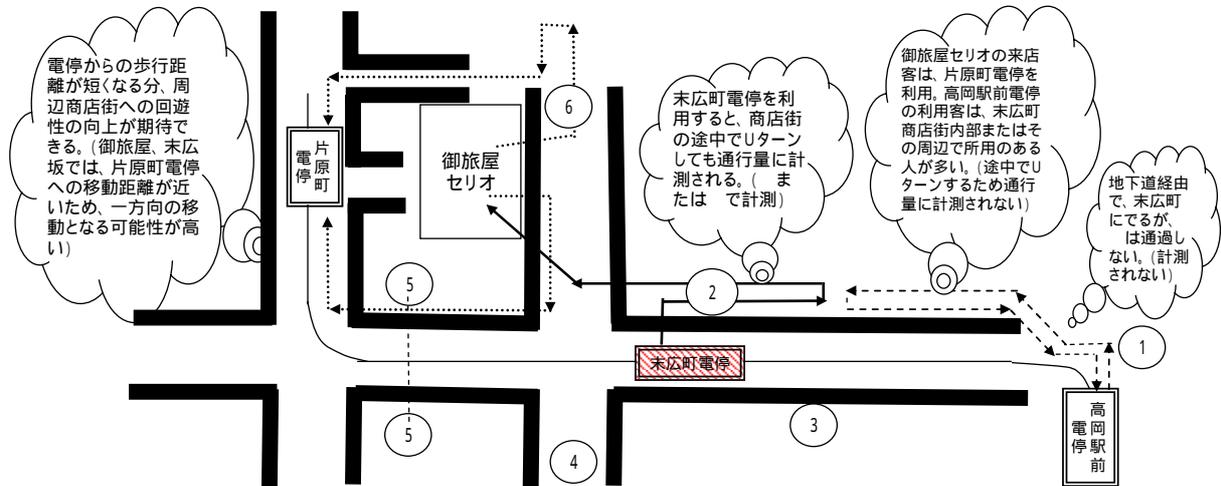
ア) 高岡駅前電停からの流入効果

高岡駅前電停からの利用者は、片原町電停と御旅屋セリオとの距離を考えると、ほとんどが未広町商店街及びその周辺を目的地としている者が多いものと考えられる。

そのため、現在の歩行者通行量の調査地点では、捕捉できていない人数も多く、未広町電停の新設により、未広町商店街北側(未広町電停側)及びその周辺を目的地としている人の利用が可能となる。あわせて、中心商店街の中心部に新たな

電停ができることにより、来街者の歩行距離が短縮され、当該目的地への来訪のみならず、御旅屋セリオをはじめ、中心商店街への回遊性が十分期待できる。

<イメージ図（高岡電停からの流入分）>



$$\frac{1,710 \text{ 人} \times 114.5\% \times 30.6\% \times 1/2 \times (1 \text{ 地点} () \times 2 (\text{往復}))}{(\text{注} 1) \quad (\text{注} 2) \quad (\text{注} 3) \quad (\text{注} 4) \quad (\text{注} 5) \quad (\text{注} 5)} + \frac{1 \text{ 地点} (\text{または}) \times 1 (\text{片道})}{(\text{注} 6) \quad (\text{注} 6)} \quad 900 \text{ 人}$$

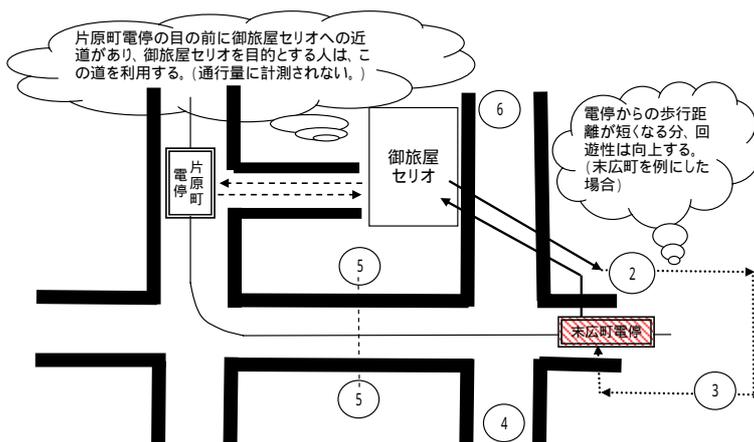
- (注1) 平成18年度一日あたり高岡駅前電停乗降客数
- (注2) 高岡駅前電停乗降客増加見込(平成14年度から平成18年度までの実績による)
- (注3) 未広町商店街方面流入率(平成19年5月調査による)
- (注4) 未広町電停が最寄り駅となる範囲として、未広町商店街の半分(図面に向かって左側)を見込む
- (注5) 未広町電停利用者のうち、未広町商店街を利用する人の通過地点数()及び通過回数(見込)
- (注6) 未広町電停利用者のうち、他の商店街を利用する人の通過地点数(または)及び通過回数(見込)

イ) 片原町電停からの流入効果

片原町電停の利用者は、そのほとんどが御旅屋セリオ方面の利用者である。片原町電停のすぐ脇から御旅屋セリオの片原町側の玄関への近道が現存しており、御旅屋セリオ利用者のほとんどがこの道路を利用する。そのため、現在の歩行者通行量の調査地点では、捕捉できていない人数も多い。

未広町電停の新設により、御旅屋セリオ利用者は、ほとんどが未広町電停へ移行すると考えられる。未広町電停の利用により、御旅屋セリオへは未広町や御旅屋通りの各商店街を通り入館することとなること、あわせて、片原町電停と御旅屋セリオを結ぶ道路は坂道であるが、未広町電停を利用する場合、未広坂商店街を除き、平面移動となること等から商店街への散策が容易になるものと考えられる。電車の待ち時間を利用した商店街への回遊性が十分期待できる。

<イメージ図（片原町電停からの流入分）>



$$\frac{333 \text{ 人} \times 103.0\% \times 54.1\% \times 2 \text{ 地点} \times 1 \text{ (片道)}}{(注1) \quad (注2) \quad (注3) \quad (注4) \quad (注4)} = 400 \text{ 人}$$

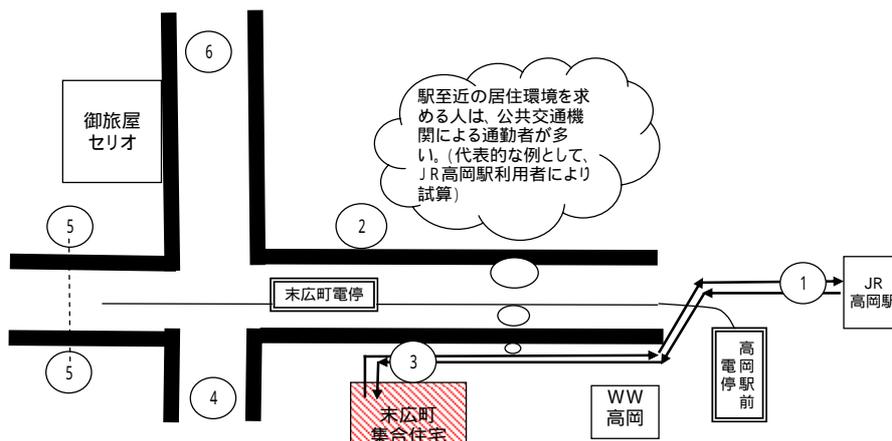
- (注1) 平成18年度一日あたり片原町電停乗降客数
- (注2) 片原町電停乗降客増加見込（平成14年度から平成18年度までの実績による）
- (注3) 御旅屋セリオへの近道利用者数（平成19年7月調査による）
- (注4) 未広町電停利用者が待ち時間等を利用し、未広町商店街等の回遊する際の通過地点数（、）及び通過回数（見込）

ア) + イ) の合計：1,300人

エ) 未広町地内集合住宅整備事業に伴う増加 500人・・・(B)

未広町商店街に店舗併用の集合住宅の建設が予定されており、これに伴い歩行者通行量の増加が期待できる。

<イメージ図>



$$\frac{50 \text{ 戸} \times 2.53 \text{ 人} \times 2 \text{ 地点} \times 2 \text{ (往復)}}{(注1) \quad (注2) \quad (注3) \quad (注3)} = 500 \text{ 人}$$

- (注1) 建設予定戸数（平成22年度入居可能）
 - (注2) 平成19年3月31日現在の中心市街地における1世帯あたりの平均居住者数
 - (注3) 集合住宅が整備された際の居住者の通過地点数（、）及び通過回数（見込）
- 居住者の年代により多方面の歩行導線が想定できるが、高岡駅至近の居住地を選ぶ場合、

高岡駅利用を目的とした居住者が多いこと、児童・生徒の通学時には、いずれかの複数の調査地点の通過が見込まれることから、高岡駅利用者を代表的な例として計測する。

) ものづくりのまち高岡のイメージづくりに伴う増加 100人・・・(C)

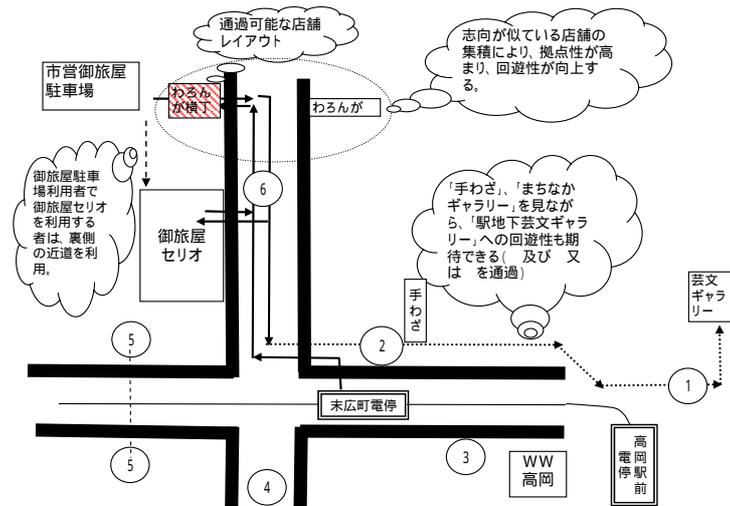
ア)(仮称)わろんが横丁整備事業等に伴う増加

((仮称)わろんが横丁整備事業、中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業、工房「手わざ」運営事業、まちなかギャラリー事業)

平成 18 年 4 月、御旅屋通りで高岡市中心商店街活性化センター「わろんが」が開設され、指定管理者の末広開発(株)により運営されているところであるが、今後、「わろんが」の拠点性を高め、中心商店街のうち、特に御旅屋通りの回遊性の向上を図るため、近隣の空き店舗を活用し、新たに、若手作家等によるチャレンジ工房となる「(仮称)わろんが横丁」を整備する。

志向性の強い店舗の融合により「わろんが」周辺の拠点性が高まるとともに、「工房手わざ」、「駅地下芸文ギャラリー」、「まちなかギャラリー」等の効果により、御旅屋通りから駅前地下街までの間が「ものづくりのまち」の回廊と化し、「高岡らしさ」の見えるまちが構築され、歩行者・自転車通行量の増加が期待できる。

<イメージ図>



$$30 \text{人} \times (100 + 20.3)\% \times 1 \text{地点} \times 2 \text{(往復)} = 70 \text{人}$$

(注1) (注2) (注3) (注3)

(注1) わろんが横丁 1 日あたり客数 (同様の嗜好性を持つ駅地下芸文ギャラリーと同程度とみなす)

(注2) 拠点性が高まることによる御旅屋通りの平均回遊性向上率 (平成 18 年度中心市街地回遊性創出事業による実績値)

(注3) 末広町電停利用者が、御旅屋セリオとあわせ御旅屋通りを回遊する際の通過地点数 () 及び通過回数 (見込)

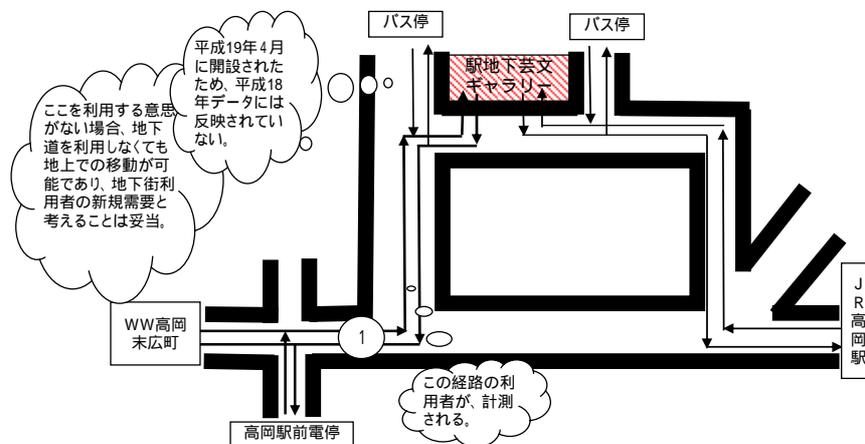
イ) 駅地下芸文ギャラリー運営事業に伴う効果

富山県ががんばる商店街支援事業の一環として、平成 19 年 4 月に高岡市内にある富山大学芸術文化学部の駅前サテライトをイメージした「駅地下芸文ギャラリー」を開設した。現在、芸術文化学部の教官、学生、卒業生等の作品を中心に展示、

販売されており、概ね1ヶ月程度の企画展を継続して行っている。

この施設には、大学生のみならず、幅広い年代の方々が来店され、地下街に新たな顧客層が形成されており、歩行者通行量の増加が期待される。

<イメージ図>



$$\frac{30 \text{ 人} \times 39.2\% \times 1 \text{ 地点} \times 2 \text{ (往復)}}{(注1) \quad (注2) \quad (注3) \quad (注3)} = 30 \text{ 人}$$

(注1) 平成19年4～8月の駅地下芸文ギャラリーの1日あたり平均利用者数

(注2) 方向へ移動した人の割合(平成19年7月調査)

(注3) 駅地下芸文ギャラリー利用者のうち、未広町方面との移動がある際の通過地点数()及び通過回数(見込)

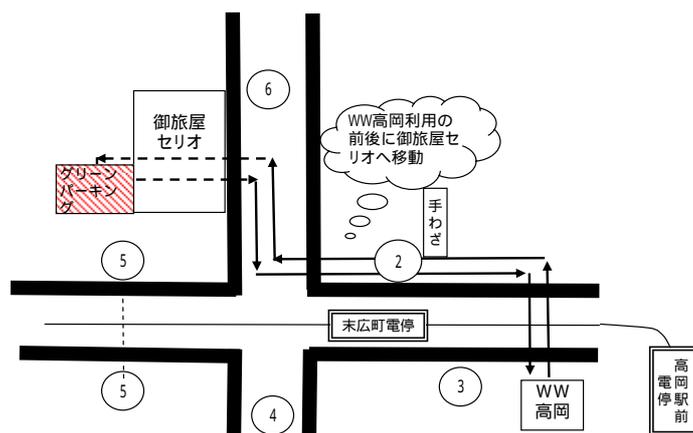
ア) + イ) の合計 : 100 人

) 市営オタヤグリーンパーキング設置事業・WW高岡運営事業による増加分

120 人・・・(D)

平成19年度にオタヤグリーンパーキングを市営化することにより、中心市街地の市営大型駐車場の新たな拠点が発生するため、安価な市営駐車場の共通回数券の利用が可能となるほか、現在、高岡中央駐車場のみで対象となっているWW高岡の利用者への一時間無料サービスの新たな対象駐車場とすることにより、御旅屋セリオとウイング・ウイング高岡間の回遊性が向上し、中心商店街の通行量の増加が期待できる。

<イメージ図>



$$\frac{443 \text{ 台} \times 2.91 \text{ 人} \cdot \text{世帯} / 1.71 \text{ 台} \cdot \text{世帯} \times 7.6\%}{(注1) \quad (注2) \quad (注3) \quad (注4)}$$

$$\times 1 \text{ 地点} \times 2 \text{ (往復)} \quad 120 \text{ 人}$$

(注5)

- (注1) 平成18年度の1日あたりの駐車場割引適用台数
- (注2) H19.3.31現在の高岡市の1世帯あたり居住者数
- (注3) H18.3.31現在の高岡市の1世帯あたり乗用自家用車保有台数
- (注2)と(注3)により、1台あたりの乗車人員を想定
- (注4) 御旅屋セリオからWW高岡への回遊率(平成18年9月調査)
- (注5) 未広町の通過地点数および通過回数(見込)

) 観光客入込み数の増加に伴う波及効果 150人・・・(F)

観光客入込み数の増加により、中心市街地における昼間人口の増加が図られる。観光客入込み数の目標を達成するため、高岡駅南北自由連絡通路整備事業やおかナビプロジェクト事業等による回遊性の向上を図る各種事業(49~50ページ参照)を実施すること等により、事業効果の20%の歩行者・自転車通行量の増加が期待されるものと想定する。

$$\frac{25 \text{ 万人} \div 365 \text{ 日} \times 20\%}{(注1) \quad (注2) \quad (注3)} \quad 150 \text{ 人}$$

- (注1) 平成23年における観光客入込み数のうち、実質増加見込数
- (注2) 1日あたりに換算
- (注3) 総合的な効果による増加寄与率(見込み)

) その他の要因による波及効果 430人・・・(G)

からまでの事業のほか、平日における歩行者・自転車通行量の増加を図るために一体的に推進する事業は、以下を予定しており、その相乗効果により、からまでの事業効果の20%がさらに集客するものと想定する。

$$\frac{2,170 \text{ 人} \times 20\%}{(注1) \quad (注2)} \quad 430 \text{ 人}$$

- (注1) からまでの事業による歩行者・自転車通行量
- (注2) 総合的な効果による増加寄与率(見込み)

ア) 交通基盤・地域交通網の整備に関する事業

J R高岡駅の南北地区相互の都市ストックの利活用を図るため、南北間を繋ぐ自由連絡通路を整備し、安心・便利な歩行者動線を確認するとともに、J R高岡駅の利便性の向上のための駅前広場や周辺施設とともに、道路網の整備やコミュニティバスを運行に取り組みることにより、高岡駅の集客力が高まり、回遊性の向上が期待できる。

- a) 高岡駅交通広場整備事業
- b) 交通センター整備事業
- c) 氷見線移設事業
- d) 市道末広町西2号線整備事業
- e) 高岡駅南駐車場整備事業
- d) 高岡駅前自転車駐輪場整備事業
- f) 地域生活基盤施設(地内各所)整備事業
- g) 都市計画道路桜馬場長慶寺線整備事業
- h) 高岡駅北口駅前広場整備事業
-) 高岡駅南北自由連絡通路整備事業
- j) 高岡駅北口歩行者専用道(人工デッキ)整備事業
- k) 都市計画道路高岡駅佐加野線整備事業
- l) コミュニティバス運行事業
- m) レンタサイクル事業

イ) まちなか居住支援に関する事業

中心市街地における居住を促進し、域内人口を増加させることにより、域内移動の活性化が図られ、回遊性の向上が期待できる。

- a) まちなか住宅取得支援事業
- b) まちなか共同住宅建設促進事業
- c) まちなか優良賃貸住宅補助事業

ウ) イベントの開催による回遊性の向上に関する事業

定期的にさまざまなイベントを開催することにより、中心市街地への来街機会を増大させる。満足度の高いイベントの開催により、平時においても来街機会の向上が期待されることから回遊性の向上が期待できる。

- a) まちづくり活動事業(中心市街地回遊性創出事業)
- b) 地域に根ざした文化資産を活用した都市再生プロジェクト
- c) 中心商店街活性化イベント開催事業
- d) 個別商店街の活性化事業
- e) 大学連携による伝統産業再生事業

エ) 魅力ある商空間形成に関する事業

魅力ある商空間形成に努めるため、中心市街地において、個々の地域特性に応じた開業を支援するほか、既存店舗のリニューアルを支援を行うとともに、若手事業者の事業意欲の向上を支援することにより、回遊性の向上が期待できる。

- a) 中心市街地における開業支援事業
- b) 中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業
- c) (仮称) 元気たかおか市民会議の開催

オ) 拠点機能の向上に関する事業

中心市街地における集客ポイントの機能向上を図ることにより、回遊性の向上が期待できる。

- a) 大規模小売店舗立地法の特例措置
- b) 高岡ステーションビル整備検討事業
- c) 高岡御車山展示館建設事業
- d) 朝市・夕市の開催

カ) 情報発信による回遊性の向上に関する事業

中心市街地に内包する各種情報を総合的に発信するとともに、従来の中心市街地のイメージとは異なる情報を付加することにより、新たな来街機会の誘発を行うことから回遊性の向上が期待できる。

- a) まちづくり活動支援事業(中心市街地商店街情報発信事業)
- b) たかおかなビプロジェクト
- c) フィルムコミッション事業
- d) たかおか観光戦略ネットワーク事業
- e) まちなか情報発信事業
- f) コロッケのまちづくり事業

キ) 昼間人口の拡大に関する事業

昼間人口の拡大のため、オフィス誘導を図ることにより、回遊性の向上が期待できる。

- a) (仮称) 第2 S O H O事業者支援オフィス整備事業
- b) 中心市街地におけるオフィス開設支援事業

上記、(A) から (G) の合計 2,600人

ここで、平成15年から平成18年までの歩行者・自転車通行量の傾向から平成23年の歩行者・自転車通行量を予測すると、

11,300人(H18年の通行量) - 400人(H23までの減少見込み) = 10,900人

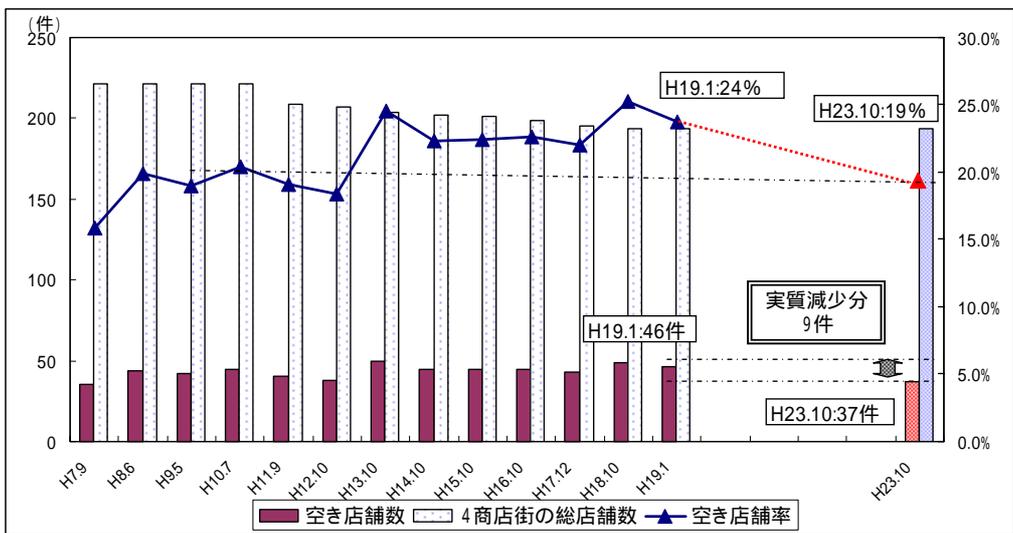
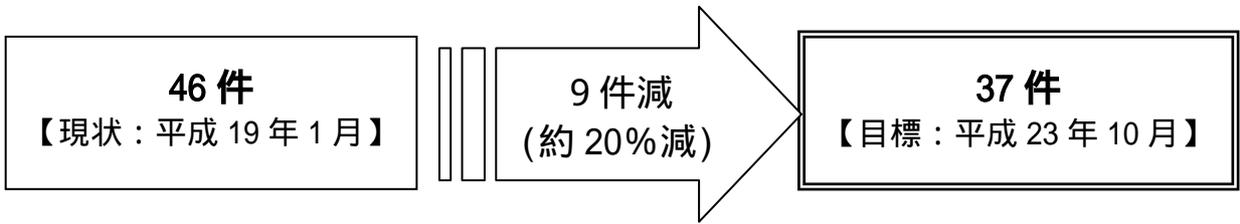
よって、目標となる歩行者・自転車通行量は、次の通りとなる。

10,900人 (平成23年10月の推測値)	+	2,600人 (増加見込み)	=	13,500人
---------------------------	---	-------------------	---	---------

歩行者・自転車通行量の増加は、回遊性の仕掛けと昼間人口の増加によるところが大きい。新たな回遊拠点として（仮称）末広町電停が新設されることにより、新たな人の流れが創出されるほか、地域の特徴に応じた個性ある商店街やまちなか居住の促進等により、昼夜間人口の拡大が図られることから、目標数値の達成は可能である。

B 中心商店街（4商店街）における空き店舗数

中心商店街（4商店街）における空き店舗数は、平成7年9月の調査開始以来、平成13年10月調査を境に変化が生じている。平成12年10月までの調査では、空き店舗率が概ね40件前後（空き店舗率では19%前後）であるが、平成13年10月からの調査以降、45～50件程度（空き店舗率では23%前後）を推移している。前述の歩行者・自転車通行量の変化と比較すると2年程度の時差があるが、平成13年は、バブル崩壊以降の倒産件数が最大となった時期であり、長引く景気の停滞から日本経済全体が一番冷え込んでいる時期である。本市においても同様の傾向が見受けられ、多くの店主の廃業のタイミングが合致したものと思われる。よって、中心商店街（4商店街）の空き店舗数の目標は、平成12年10月調査レベルの37件（空き店舗率で19%程度）を目標とする。



		H7.9	H8.6	H9.5	H10.7	H11.9	H12.10	H13.10	H14.10	H15.10	H16.10	H17.12	H18.10	H19.1
未広町	空き店舗率	11.3%	12.5%	12.5%	15.0%	15.3%	12.7%	16.7%	15.3%	19.2%	20.5%	18.1%	19.2%	20.5%
	空き店舗数	9	10	10	12	11	9	12	11	14	15	13	14	15
	総店舗数	80	80	80	80	72	71	72	72	73	73	72	73	73
御旅屋	空き店舗率	20.7%	27.6%	25.9%	25.9%	16.1%	14.5%	22.2%	20.4%	27.8%	25.9%	25.9%	32.1%	28.3%
	空き店舗数	12	16	15	15	9	8	12	11	15	14	14	17	15
	総店舗数	58	58	58	58	56	55	54	54	54	54	54	53	53
高の宮	空き店舗率	22.8%	29.8%	28.1%	28.1%	30.9%	32.7%	34.6%	32.0%	27.1%	28.3%	29.5%	34.9%	32.6%
	空き店舗数	13	17	16	16	17	18	18	16	13	13	13	15	14
	総店舗数	57	57	57	57	55	55	52	50	48	46	44	43	43
未広坂	空き店舗率	3.8%	3.8%	3.8%	7.7%	11.5%	11.5%	30.8%	26.9%	11.5%	11.5%	12.0%	12.0%	8.0%
	空き店舗数	1	1	1	2	3	3	8	7	3	3	3	3	2
	総店舗数	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25
4商店街計	空き店舗率	15.8%	19.9%	19.0%	20.4%	19.1%	18.4%	24.5%	22.3%	22.4%	22.6%	22.1%	25.3%	23.7%
	空き店舗数	35	44	42	45	40	38	50	45	45	45	43	49	46
	総店舗数	221	221	221	221	209	207	204	202	201	199	195	194	194
	営業店舗数	186	177	179	176	169	169	154	157	156	154	152	145	148

）中心市街地における開業支援事業等に伴う増加 **6件**・・・(A)

(中心市街地における開業支援事業、(仮称)高岡市まちなか再生資金事業)

中心商店街の空き店舗には、老朽化等が原因で賃貸が容易ではない物件も多数存在することから、支援事業等により、賃貸可能な空き店舗の増加を図ることにより、空き店舗の解消を図る。

ア) 店舗併用住宅のリフォーム支援

多くの空き店舗は、自己所有の店舗併用住宅の場合が多く、建物構造が賃貸を前提とした間取りになっていない。そのため、トイレ等水周りの新設や玄関の区分など、賃貸が可能な物件へのリフォームを支援することにより、賃貸可能な空き店舗の増加を図るものである。

リフォーム支援による空き店舗解消可能件数 = 4件

(注1)

(注1) 実地調査による

イ) 老朽化した店舗の再生

リフォーム対応が困難な老朽化が著しい物件のうち、特に優先度の高いものについて、緊急的な措置としてTMOが中心となった資金面、事業面を支援する抜本的な店舗再生システムを構築し、店舗再生を支援する。

店舗再生による空き店舗解消可能件数 = 2件

(注1)

(注1) 実地調査による

ア) + イ) の合計: 6件

）中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業等に伴う増加

3件・・・(B)

(中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業、(仮称)わろんが横丁整備事業)

「わろんが」では、施設運営のみならず「オタヤの夕市」のような通りを活用したイベントも開催している。「わろんが」のオープンに伴い、御旅屋通りにはブランド志向の高い中高年層の顧客の回帰が見受けられており、「わろんが」と近接

して「(仮称)わろんが横丁」が開業することにより、相乗効果から、更なる来街者の増加が期待される。この効果により、平成18年からの高岡ステーションビル地下街での傾向と同様、空き店舗への入居希望者が増加するものと期待される。

$$\frac{4 \text{ 件} \times 87.5\%}{(注1) \quad (注2)} = 3 \text{ 件}$$

(注1) (注2)

(注1) 御旅屋通りにおいて、賃貸希望している空き店舗のうち施設改善等の必要がないもの

(注2) 高岡ステーションビル地下街における空き区画解消率[7区画/8区画=87.5%]

129ページ参照

) その他の要因による効果 ± 0 店舗・・・(C)

から までの事業のほか、空き店舗数の減少を図るために一体的に推進する事業は以下を予定しており、その相乗効果により、新規開業店舗数を現状維持するとともに廃業店舗数を増加させないものと想定する。

廃業店舗の増加による空き店舗数 ± 0 件

ア) 営業支援に関する事業

開業店舗や既存店舗が永続的に営業できるよう、中心商店街の中心部に位置する駐車場の公営化により安価な回数券(駐車券)を提供可能とするとともに、核となる大規模小売店舗の立地促進ややる気のある店主の活動を支援することにより、空き店舗数の減少が期待される。

a) 市営オタヤグリーンパーキング設置事業

b) 大規模小売店舗立地法の特例措置

c) 中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業

d) (仮称)元気たかおか市民会議の開催

イ) 昼間人口の増大に関する事業

商業・サービス業のみならず、昼間時における消費人口の増大に繋がる一定規模以上のオフィスの開業への支援により、空き店舗数の減少が期待される。

a) 中心市街地におけるオフィス開設支援事業

上記、(A) から (C) の合計 = 9 件

ここで、平成15年10月から19年1月までの過去5回の調査による空き店舗数の傾向をみると、概ね横ばいに推移している。また、空き店舗の要因は、不動産市況の影響もさることながら大家ごとの個々の事情が大きな要因を占め、過去の空き店舗発生件数の傾向だけでは今後の動向が予測できない点が大いことから、

46件(H19.1調査時点の空き店舗数) ± 0 件(空き店舗数増減見込み) = 46件

よって、目標となる空き店舗数は、次の通りとなる。

46件	-	9件	37件
〔平成19年1月調査時点の 空き店舗数〕		〔空き店舗数の減少見込み〕	

空き店舗の発生する要因に応じた空き店舗支援を行うとともに、まちなか居住やオフィス誘致の推進により昼夜間における消費人口の拡大を図ることにより、開業希望者の増加や廃業希望者の減少が期待されることから、目標数値の達成は可能である。

フォローアップの考え方

A 中心商店街（6地点）における平日の歩行者・自転車通行量

歩行者通行量は、高岡市において、6地点を含め、偶数年（平成20年、22年）に中心商店街を中心に市内31地点の歩行者通行量調査を実施している。奇数年（平成19年、21年、23年）については、独自の調査を実施し、これらの数値を根拠とすることにより、数値目標の達成状況を確認する。あわせて、基本計画が認定された2年後の平成21年度において完了もしくは開始している事業について進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進などの目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

B 中心商店街（4商店街）における空き店舗数

空き店舗数は、TMOである末広開発株が出店希望者への開業支援や大家への賃貸意向確認等により現況調査を実施している。過去の調査が10月期のものが多いことから、毎年10月の現況調査により比較する。あわせて、基本計画が認定された2年後の平成21年度において完了もしくは開始している事業について進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進などの目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。